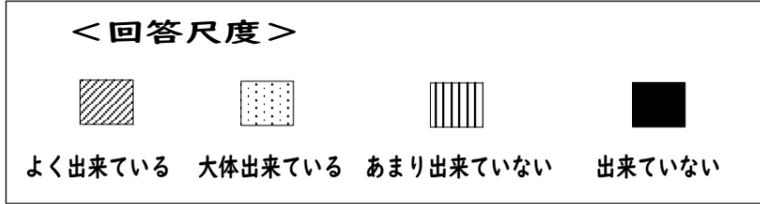


# 令和7年度（後半）

## 【学校評価アンケート結果について】

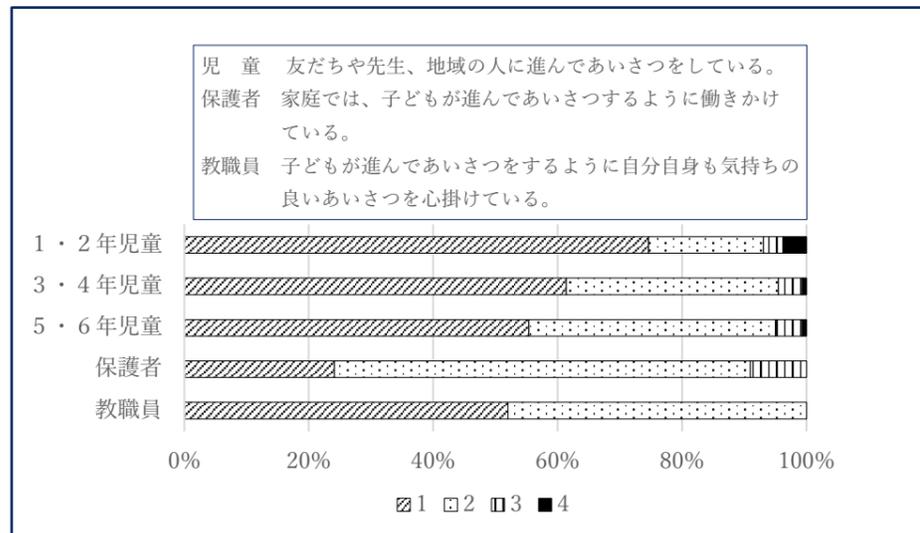
2月に実施いたしました学校評価アンケートの集計結果を、お知らせいたします。「1・2年児童」「3・4年児童」「5・6年児童」「保護者」「教職員」の結果をグラフで表しています。



このアンケートでは、本校の「目指す子ども像」に照らして、児童・保護者・教職員の視点から評価することを通して、日々の学校教育活動の成果と課題を見つめ、今後の改善の指針とさせていただきます。また「家庭・地域での子どもの様子」について調査することを通して、家庭・地域と学校との連携を深めていきたいと存じます。お忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございます。

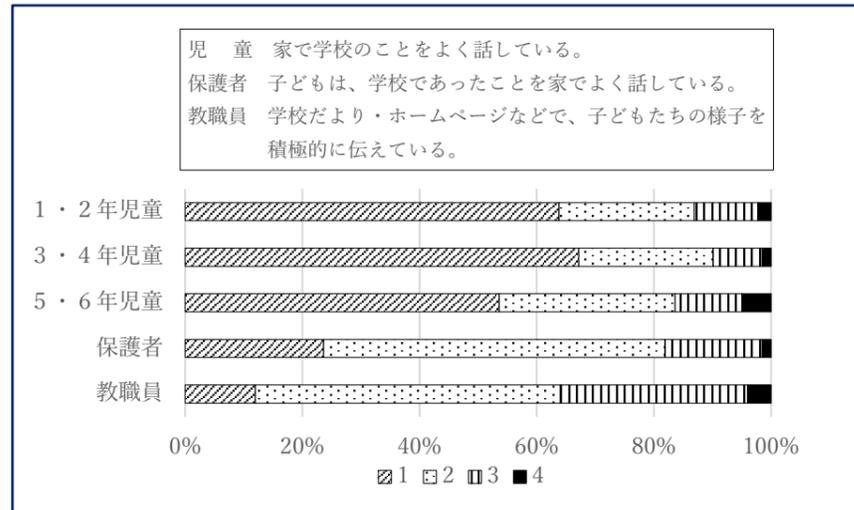
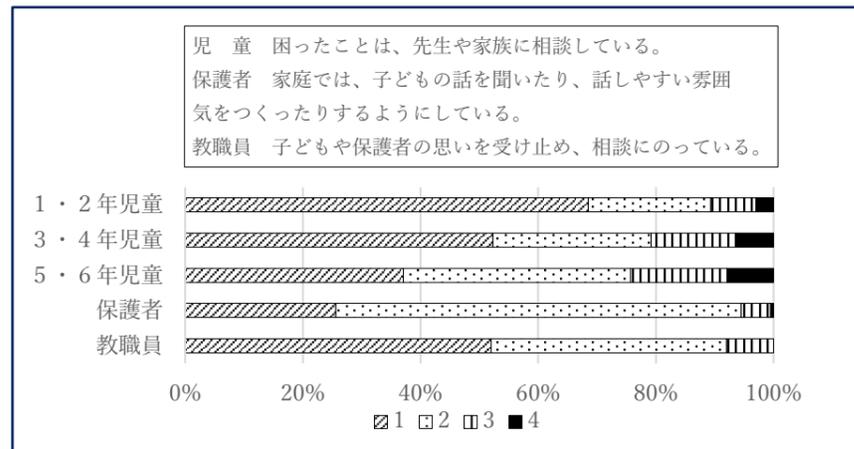
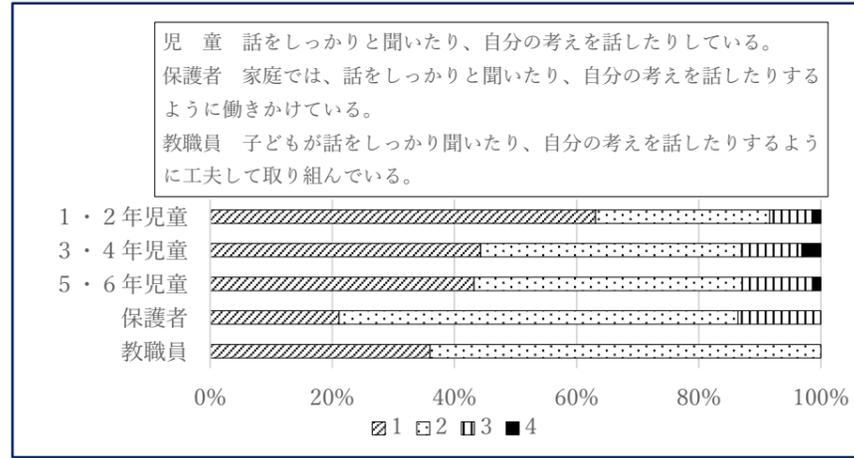
### 自分から素敵なあいさつができる子

『あいさつしている』という項目では、児童は「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせて90%以上、保護者の方も90%以上の肯定的な回答があり、前半のアンケート結果よりも良い結果がでました。毎朝校門では、教職員や児童会等の子ども達がいさつを続けていることにより、自主的にあいさつする児童はいます。また、あいさつすると学級のポスターにシールを貼っていく楽しい仕組み・取組により、あいさつに対する意識は高まりました。今後も互いに気持ちの良いあいさつをかわしたり、あいさつの意味を考えたりすることで他の児童もあいさつの大切さを理解し、あいさつの輪が広がっていかれると思っています。引き続き、ご家庭や地域で、児童が自分から進んで素敵なあいさつができるような働きかけをよろしくお願いいたします。



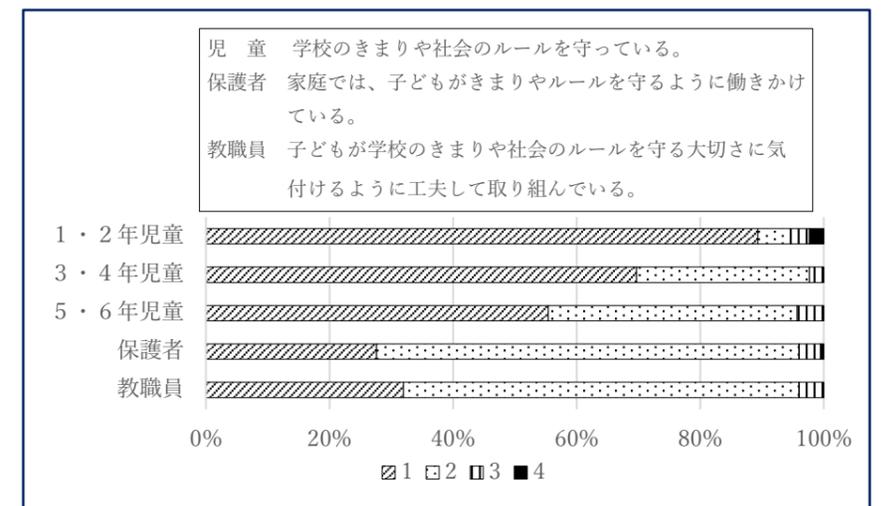
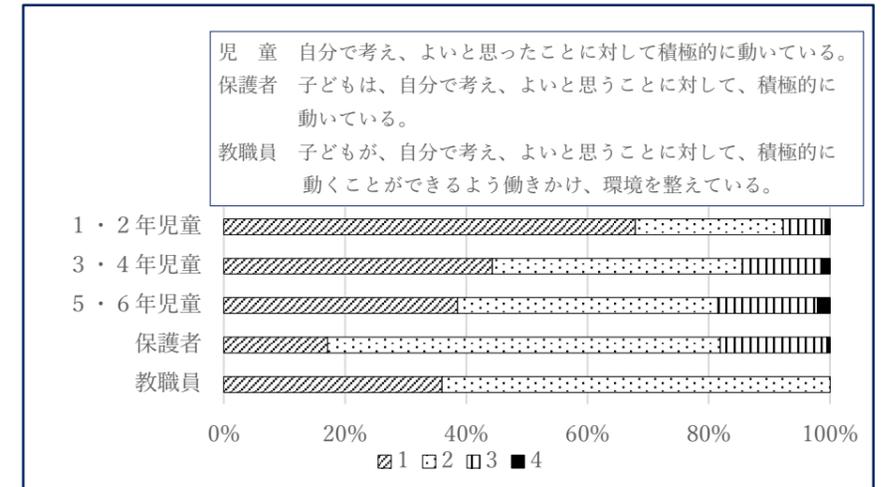
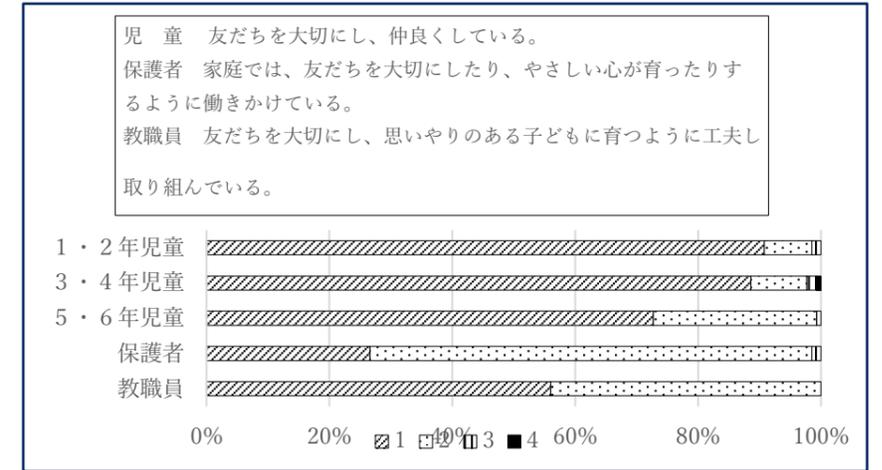
### 相手の思いを受け止めながら聞くことができる子

『話をしっかりと聞いたり、自分の考えを話したりしている』では、児童や保護者は80%以上肯定的な回答でした。今後、学校では、的確に自分の考えを伝えることができるよう、日頃から学級の中で自分の思いや考えを話しやすい雰囲気をつくっておいたり、話し方を授業で学んだり、自分の考えをノート等に整理する習慣を身につけたりして、児童が自信をもって自分の考えを話せるよう働きかけていきます。「話を聞く」については、今後も日々の授業や全校集会等で繰り返し聞くことの大切さを伝え「聞く文化」を育てていきます。『困ったことは先生や家族に相談している』や『家で学校のことをよく話している』の項目では、児童は75%以上、保護者の方は、80%以上の肯定的な回答で児童については、肯定的な回答が前半の結果より高くなりました。しかし困ったことを先生や家族に話せていないと思っている児童はいます。学校では、相談ルートを複数にしたり、子どもに寄り添ったり、話しやすい雰囲気をつくったりすることで子どもが「本当の自分を出せる」ような環境づくりに努めます。また「今日楽しいことあった？」等良いことに目を向けた問いかけを行うことで、子どもが安心して相談できる環境づくりを構築していきたいものです。



### 自分で考え、よいと思うことに対して積極的に動き出せる子

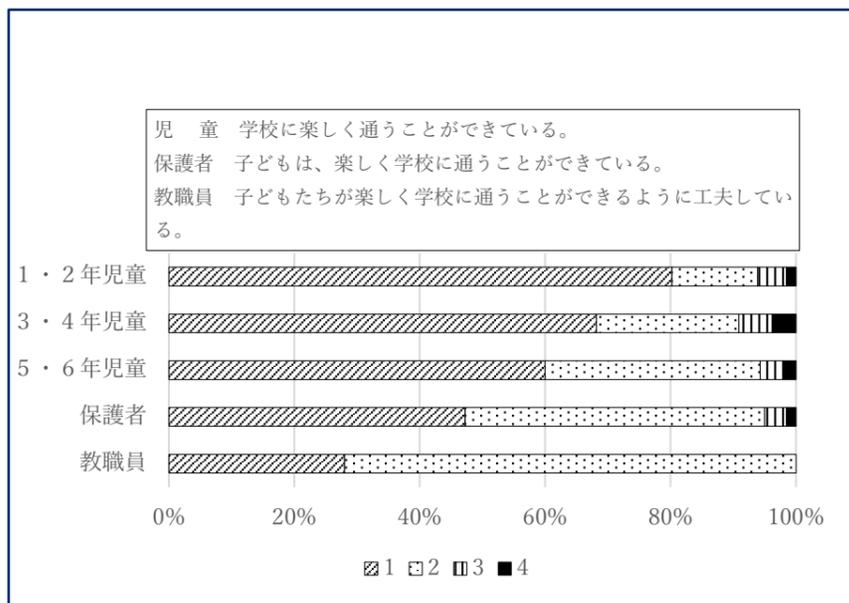
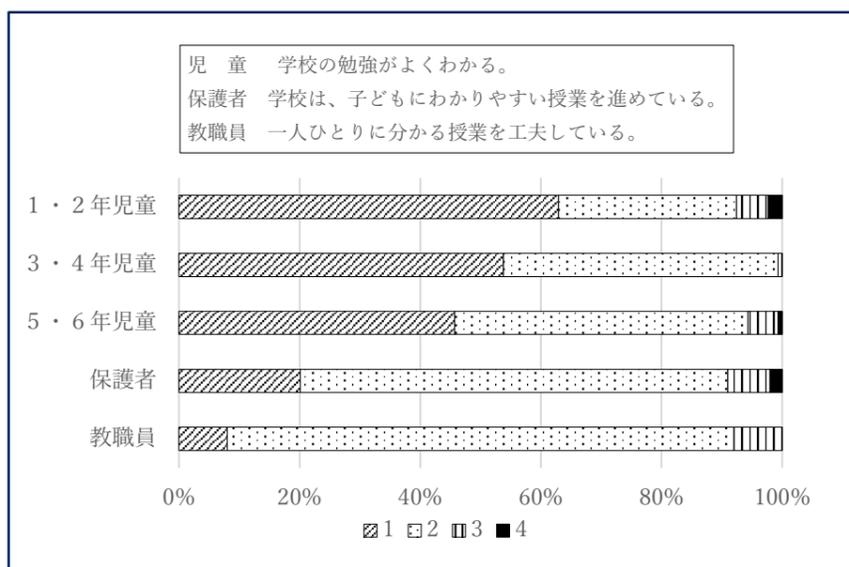
『友だちを大切に、仲良くしている』という項目では、児童の肯定的な回答は、95%以上ありました。また保護者も教職員も95%以上でありました。学校では授業や人権教育の取組を中心に子ども達がお互いのよさや違いの魅力に気付く取組や、子ども達一人一人が自分が大切にされている実感がわく環境作りに努めていきます。『自分で考え、よいと思うことに対して積極的に動いている』という項目では、児童では低・高学年と比べ、中学年の肯定的な回答が低い傾向がでました。学校では、児童会活動の取組を充実させて児童が活躍できる場を増やしてきました。今後、ゴールを共有し、どの学年も児童自らが目的を目指して動き出し、責任をもって活動できるような環境を整えていきます。『学校のきまりや社会のルールを守っている』では、児童・保護者・教職員ともに肯定的な回答が90%以上ありました。きまりやルールを守ることは大変重要です。大人が言葉より行動でモデルを示したり、安心・安全な環境を整えたりすることで、子ども達が勇気や自信をもち「よいと思うことに対して積極的に動く」ことが増えていければと考えています。



### 学び続けることができる子

『学校の勉強がよくわかる』という項目では、児童・保護者・教職員ともに「よく分かる」「大体分かる」が90%以上肯定的な回答でした。児童・保護者の方の肯定的な回答が前半の結果よりも増えています。教職員については、90%あたりの結果となりました。教職員は、児童が「分かる授業」ができていくか日々、授業改善に向き合っているため、このような結果になったと考えています。児童が日々の授業でワクワクし、学ぶ楽しさを実感できる授業作り、授業改善を進めていきます。また「対話型の授業」を通して、子ども達同士が考えを交流し合い、主体的に問題解決している姿は増えてきています。これからも児童が自走して学び合う集団づくり、授業づくりに努めていきます。

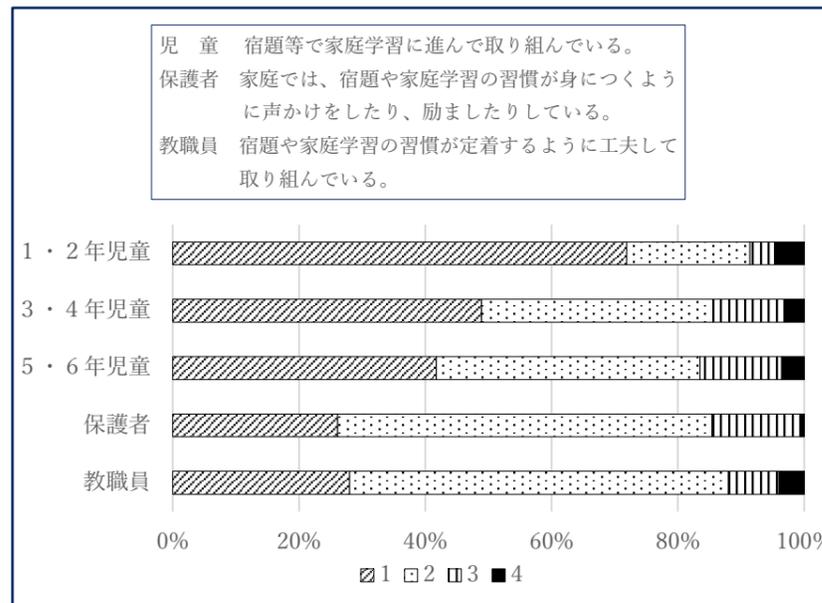
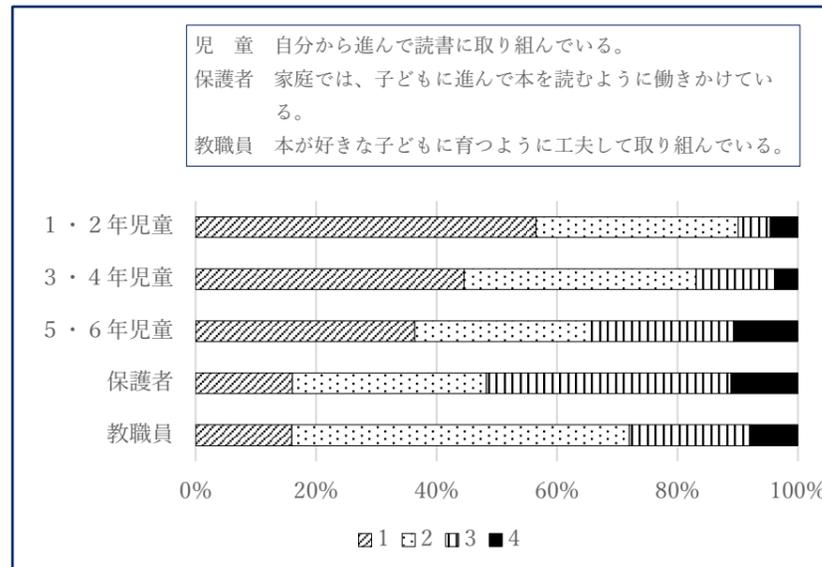
『学校に楽しく通うことができる』という項目では、児童・保護者・教職員ともに90%以上、わが子や児童が楽しく学校に通えていると考えているようです。児童は、児童会活動やたてわり遊び等学年をこえて活動したり、休み時間に遊んだりしたことで学校生活を楽しく児童は増えました。今後もワクワクが止まらない魅力あふれる桂東小学校を目指し、子ども主体のやりたいことが実現「できる」学校づくりを進めていきます。



### 学び続けることができる子

『自分から進んで読書に取り組んでいる』という項目では、児童の肯定的な回答は1・2年生で90%程度、3・4年生が80%程度、5・6年生については60%程度でした。学校では、図書室を利用する際に図書館司書が児童に本の読み聞かせをしたり、読書週間を中心に児童に読書の興味・関心を高める取組をしたりしてきました。しかし、取り組んできたことが児童自ら進んで読書をする姿にまだまだつながっていないということがアンケートの結果から読み取ることができました。今後、学級でも本の読み聞かせを聞いたり、お話を映像で見たり、お話を音声で聞かせたりと楽しい体験をすることで本に対する子ども達の興味を高めたいと思います。また、学校の教育活動の中で教師が児童の読書をする時間を確保することも大切だと考えます。

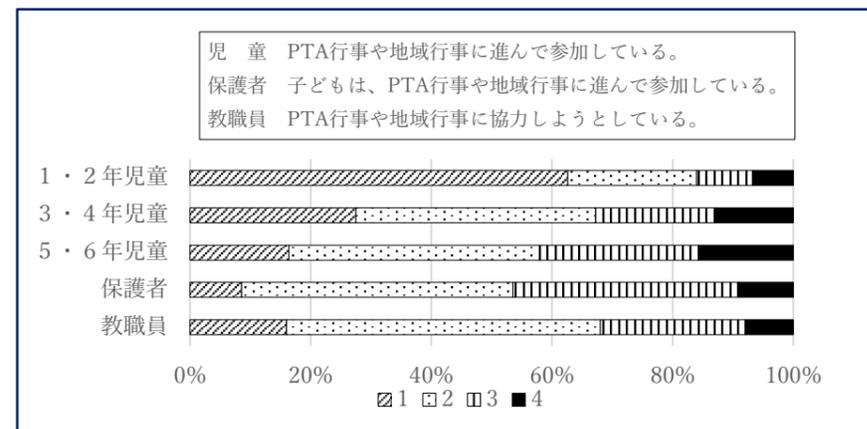
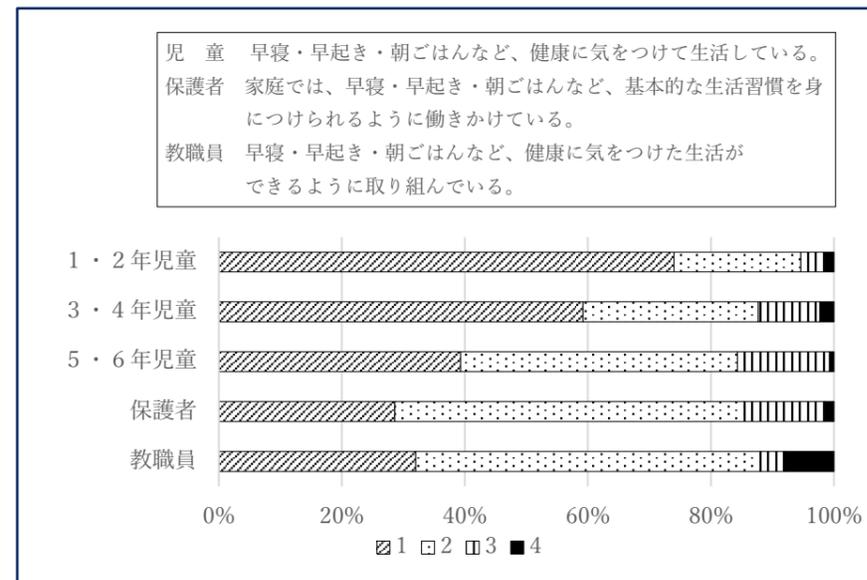
『家庭学習に取り組んでいる』という項目では、児童・保護者・教職員ともに80%以上の肯定的な回答がありました。学校では、学校の宿題の内容や量、提出期限を工夫し、家庭学習に取り組みやすくすることも児童が進んで家庭学習に取り組めるようになる1つの方法だと考えます。自学自習の習慣化に向けた計画・取組を考え、ご家庭と学校が協力しながら宿題・家庭学習を進めていきたいです。



### 家庭・地域での子どもの様子

『早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気をつけて生活している』という項目では、児童の肯定的な回答は、学年によりバラつきがありました。また、保護者の回答については、肯定的な回答が90%程度となりました。学校では、朝読書など朝の時間を大切に、「朝が気持ちよく始める」環境を整えたり、授業や保健便り・給食便り「もぐもぐ通信」で児童に健康的な生活習慣について考える機会を設けたりしていきます。

『PTA行事や地域行事に進んで参加している』という項目では、児童の肯定的な回答は学年により結果のバラつきが見られました。今年度の秋に実施された「桂川ふれあい祭り」では、たくさんの児童が参加している姿が見られました。保護者の方の肯定的な回答は60%以下となりました。児童が地域行事等について考えたり、参加したりすることを通して、地域とのつながりを深め、ご家庭・地域・学校が一体となって桂東小の児童を育てていきたいです。保護者・地域・教職員が子どもを中心にし、互いを思いやり、たっぷりの愛情でつながる温かいチームとなって、児童の健やかな成長を育てていきたいものです。



### 総括

全体的な傾向としては、「できている」という回答でした。アンケートの結果から見て、1～6年生まで楽しく学校に通えているようです。また、5～6年生は、児童会活動等で前向きに主体的に活動をしています。今後、学校全体の児童が「できている」「できた」という充実感・達成感がもてるようにしていきたいです。

自由記述欄では、学校に対する期待や子ども達の成長を願ったたくさんの温かいお言葉をいただきました。ありがとうございました！